



訓練が命を守る

大地震想定 各校で行動確認



地震を想定した訓練で机の下に身を隠す児童 16日、由布市挾間町古野

「状況に応じた判断力を」

6千人以上の犠牲者を出した阪神大震災は17日で発生から29年。大分県内の学校では大地震を想定した避難訓練を実施し、子どもたちが自分の命を守る行動を確認している。専門家は「災害時の対応を学ぶのに訓練に勝るものはない」と重要性を訴えている。

由布市挾間町古野の由布川小(436人)は16日に訓練をした。2時間目の授業が始まってすぐ、地震発生を想定した非常ベルが鳴り響いた。児童たちは落ち着いて机の下に隠れ、その後、グラウンドに避難した。

全校集会で森次晃(うら)校長(60)が「その時にいる場所、時間によって取るべき行動は変わる。状況に応じた判断力を付けて、自分の身をどうしたら守ることが出来るか。家でも確認しておこう」と呼びかけた。

1995年の大震災を知らない子どもたちも、今月1日に起きた能登半島地震のニュースに触れ、地震の恐ろしさと備えの大切さを知った。集会では亡くなった200人以上に黙とうをささげた。

5年生の工藤奈々さん

(10)は「テレビで見て本当に怖かった。食べ物や水などを普段から準備しておきたい」。後藤龍駕君(11)は「今日は訓練と分かっていただけでしたが、本当に地震が来たら焦ってしまってもいい。冷静に外に逃げたい」と話した。

由布市内ではこの日、庄内町大龍の東庄内小も同様の訓練をした。

各市町村教委によると、今週は大分市や佐伯市の小中学校でも防災訓練がある。2011年の東日本大震災を踏まえて3月に実施する学校も多い。

大分大減災・復興デザイン教育研究センター長の鶴成悦久教授(46)は「訓練は日頃の防災教育や学校の危機管理の在り方が試される。先生が子どもをどう誘導し、子どもは命を守る行動にどうつなげるか。マニュアル通りではなく実際の災害に対応できるかどうかが大仕事だ」と話した。

(佐藤光里、安里葉冬)



問①～④について、記事の中から探して書き出しましょう。問⑤は自分で考えてみましょう。

〔問①〕 阪神大震災が発生した日は何月何日ですか。また、発生から何年が経ちましたか。

答え 【 (1) 月 (17) 日、発生から (29) 年 】

〔問②〕 由布川小学校の校長先生は、全校集会でどんなことを「家でも確認しておこう」と呼びかけましたか。

答え 【 <解答例> (その時にいる場所、時間によって取るべき行動は変わる。状況に応じた判断力を付けて、) 自分の身をどうしたら守ることができるか 】

〔問③〕 記事の中で、防災訓練を「3月に実施する学校も多い」とありますが、その理由は何でしょうか。

答え 【 <解答例> 東日本大震災が2011年の3月11日に発生したことを踏まえて 】

〔問④〕 大分大学の鶴成教授は「マニュアル通りではなく」何が大事と言っていますか。

答え 【 <解答例> 実際の災害に対応できるかどうか 】

〔問⑤〕 記事には防災訓練を受けた5年生の工藤さんと後藤くんの感想が載っています。あなたも記事を見て、また学校などで防災訓練を受けたことがあればその感想を書いてみましょう。

※自由記述